



サンゴタツ *Hippocampus mohnikei*
 ヨウジウオ目 タツノオトシゴ属
 タツノオトシゴの仲間であるサンゴタツは、二色の浜にアマモ場が復活してから生息確認された種です。写真の個体は2024年7月7日の「二色の浜のアマモ場の生きもの」観察会で参加者の稲葉逞真さんが採集されました。

サンゴタツは国内で生息しているタツノオトシゴ類の中では最も小型で、最大でも8cm程です。他のタツノオトシゴと比べ、頭頂部の突起が低く、口吻も短いのが特徴です。沿岸の藻場で見られますが、特に内湾のアマモ場に多く生息します。

内湾のアマモ場や砂泥底域などに生息していて、動物プランクトンやヨコエビ類、アミ類などを食べます。



浜万年青 (ハマオモト)
 ヒガンバナ科ハマオモト属

この植物の名前は難しい読みですね。浜辺に生え、万年青(オモト)のような葉にていることから、この名前が付いたとされていますが、別名のハマユウ(浜木綿)と聞けば聞いたことがあるという方が多いように思います。

ハマオモト(ハマユウ)のように、夏に咲く花は意外に少なくはま

っすぐ立った太い茎の先には細長い白い花をたくさんつけ、そこからは良い香りが出ています。夕方から咲き始めます。市民の森自然生態園には、海浜植物の生育環境を再現した区域があり、ハマオモト(ハマユウ)を見ることができます。

国の天然記念物 和泉葛城山ブナ林



和泉葛城山ブナ増殖検討委員会 提供

和泉葛城山ブナ林は国指定の天然記念物で昨年100周年をおかえました。山頂の国の天然記念物指定ブナ林をコアゾーン(約10ha)、樹林帯をバッファゾーン(約50ha)とし保護管理をおこなっています。シカは植物を食べる日本の在来種で個体数も増加しています。樹皮を食べられた樹木は枯れていき下草も食べつくされます。森林が衰退していく事例は全国でどんどん拡大されています。大阪府内では北摂山系(箕面市、能勢町、高槻市北部など)などを中心に生息していましたが、大阪南部でも目撃されています。一昨年まで和泉葛城山ブナ林ではシカの生息は確認していませんでしたが、昨年コアゾーン(写真上)とバッファゾーン(写真下)に設置している哺乳類カメラに撮影されました。現在は研究者、貝塚市、岸和田市、大阪府関係諸機関、ブナ愛樹クラブからなる和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会を中心にシカ対策も含めたブナ林の保護増殖の課題解決の活動を重ねています。